

Q 現場施設で働く中で、大変だったことはなんですか？

回答：矯正局 採用9年目



体力勝負であること

少年院の法務教官として勤務していた頃は、とにかく体力勝負の日々でした。

基本的に勤務時間中はずっと立ちっぱなしですし、深夜の巡回勤務、少年たちにお手本を見せる体育指導など、体力をかなり消耗しました。

特に採用されて間もない頃は、「保安」という仕事メインになります。これは、在院者が自身や周りの人を傷付けるようなことをしていないか、反則行為をしたり、企てたりしていないかをきちんと見守り、先輩職員と連携しつつ、適切なタイミングで助言・指導をするという重要な仕事で、常に全ての在院者に視線が行き届くようにするとともに、知識だけではなく「足で稼ぐ」ことがとても大切です。

また、集団行動や護身術、手錠操法の訓練など、規律秩序を維持するための公安職ならではの業務もあり、私も大変苦労しましたが、先輩や仲間に使われて何とか乗り越えました。

そういった意味では、アスリート並みの運動能力は不要ですが、基礎体力がないと苦労するかもしれません。しかし、体力は採用された後でも向上させることが可能です。体力は人並みの私ですが、当時は勤務を充実させるべく、公私ともに必死に努力していました。

炎天下の農場勤務、凍てつく寒さの運動場保安、当直明けの日の出、新人仲間との課外訓練……。そういった日々が懐かしく思い出されます。少年院の少年たちは、あなたが苦手なことでも決して手を抜かず、必死に勤務する姿勢から、きっと多くを学び取るはずだと思いますよ。